

# Infinity Vol.07

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2021.6.10発行

発行元

龍谷大学

社会共生実習支援室

〒520-2194

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学瀬田キャンパス内

社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230

FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp



構内で写真を撮影中（自治体をPRしてみる！）



野菜の苗を植える受講生（農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」）

障がいを持つ子どもたちが作成しただるま（障がいをもつ子どもたちの放課後支援）



## 2021年度 プロジェクト始動

### 自治体をPRしてみる！ （岸本プロジェクト）

4月23日（金）にプロカメラマン南川二郎氏から動画の撮影方法を学びました。

今年度から開講した当該プロジェクトでは、自治体の広報現場に実際に入り映像を作成し、自治体をアピールする広報力を磨いていきます。

撮影前には、南川氏より「身体を大きく動かさない」や「撮影する被写体にカメラを向け、録画を始めてから5秒間はカメラを動かさない」などのアドバイスをもらい、より見やすく、綺麗に撮影する方法を学びました。



### 多文化共生のコミュニティ・デザイン

～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～（川中プロジェクト）

4月23日（金）に兵庫県立尼崎小田高等学校の国際探求学科の生徒による発表をオンラインで聞きました。

今回発表してくださった高校生たちは、尼崎市が地域参加する高校生を支援する「あまらぶチャレンジ事業ジュニアコース」に参加し、多文化共生のプロジェクト活動を進めました。このプロジェクト活動の企画立案を川中がサポートしており、今回の交流へつながりました。高校生たちは、尼崎市に住む外国人にとって住みやすい街にしたいとの思いから在日外国人の人数を調べた結果、市内に在日外国人の約10%を占めるベトナム人と交流し、「日本人との交流の場がない」等の悩みを打ち明けられたといったことが報告されました。

同じ分野で活動する高校生たちの姿に学生たちも刺激をもらったようでした。



### 大学は社会共生に何ができるのか

－文化財から“マネー”を創出する－（高田プロジェクト）

4月30日（金）にNPO法人 歴史資源開発機構 主任研究員 大沼芳幸氏にお越しいただき「滋賀の文化財と文化財行政／近江聖徳太子資源化の取り組み」というテーマで、文化財に関する基礎知識から、現状についてご講話いただきました。

質疑応答の時間では、大沼氏から学生へ「なぜこのプロジェクトに興味を持ったのか。」との質問に対し、学生たちからは「知人に、滋賀県には何があるのかと聞かれたときに「びわこ」としか答えられず、滋賀の文化遺産の事を知りたいと思った」などの回答がありました。その後も時間の許す限り質疑応答が繰り返され学びの深まる時間となりました。



### 農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」（坂本プロジェクト）



農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」（担当教員：コミュニティマネジメント学科 坂本清彦准教授）では、5月14日（金）に作物の種や苗を植えました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初予定していた学外への実習が難しくなったため内容を変更し、学内で野菜などを育てることにしました。今回は受講生が持参してくれたミントの苗や実習先の「おもや」からいただいた落花生、バターナッツ、かぼちゃ等10種類の種や苗を植えました。久しぶりに土いじりをした学生や慣れた手つきの学生も協力して作業を進めました。畑に移し替えをするまでは学内に展示する予定です。

# <2021年度プロジェクト一覧>

<p>①地域エンパワねっと・大津中央</p> <p>担当者 脇田 健一</p>	<p>学生力×地域力＝無限大∞</p>
<p>②地域エンパワねっと・大津瀬田東</p> <p>担当者 築地 達郎</p>	<p>大津市内2地域とのコラボを通じて、地域活性化を実地に学びます。テーマは地域住民とともに学生自身が見つけ出します。社会学部教育を特徴づけるプログラムです。</p>
<p>③「子どもにやさしいまち」を作ろう</p> <p>担当者 田村 公江</p>	<p>現在、貧困、虐待、いじめ、体罰など、子どもが苦しんでいる問題がたくさんあります。本プロジェクトでは「体罰をみんなで考えるネットワーク」などと連携して、体験型学習をします。</p>
<p>④雑創の森プレイスクールプレイワーカー</p> <p>担当者 久保 和之</p>	<p>冒険遊び場（プレイパーク）で子どもたちの遊びを支援し、上手に遊べるおとなになることを目指します。実際のプレイスクールで、実習体験を通して知識や技術を学びます。</p>
<p>⑤大学は社会共生に何ができるのか -文化財から“マネー”を創出する-</p> <p>担当者 高田 満彦</p>	<p>改正文化財保護法施行で観光における文化財の活用促進が一気に加速します。滋賀の文化財というリソースを最大限活用し、マネーの創出法を学生・行政・NPOのコラボで考えます。</p>
<p>⑥農福連携で地域をつなぐー 「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」</p> <p>担当者 坂本 清彦</p>	<p>障がい者、高齢者、生活困窮者らが農業に携わる「農福連携」を通じて地域社会とつながり、いきいきと暮らせる共生社会の実現に向けた課題発見、その解決に向けた方策策定や実践をめざします。</p>
<p>⑦仏教&amp;社会を学ぶ場をつくる 後期開講</p> <p>担当者 古莊 匡義</p>	<p>せっかく龍大の社会学部で学んでいるのですから、仏教を通して社会について考えてみませんか。 でもどうやって？——若者の好奇心をくすぐる領域横断的な学びの場を自分たちで作ってみましょう！</p>
<p>⑧いくつになっても、出かけられる！ ～高齢者を元気にする介護ツアー企画～ 後期開講</p> <p>担当者 高松 智画</p>	<p>介護が必要な高齢者が楽しんでもらえる日帰りツアーの企画から実施、評価を行います。基本的な介護技術を習得するとともに、高齢者をとりまく課題などについて考察します。</p>
<p>⑨多文化共生のコミュニティ・デザイン ～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～</p> <p>担当者 川中 大輔</p>	<p>京都の在日コリアンの方々との交わりを中心に、多文化共生まちづくりの問題を具体的に捉え、その問題解決のための活動を企画・実施します。</p>
<p>⑩障がいをもつ子どもたちの放課後支援</p> <p>担当者 土田 美世子</p>	<p>放課後等デイサービスでの活動を通じて、障がいをもつ子どもとの具体的な関わり方、放課後支援の意義を学び、子どもの側の視点に立った社会の在り方を考えます。</p>
<p>⑪自治体をPRしてみる！</p> <p>担当者 岸本 文利</p>	<p>地域の魅力を映像ツールでPR。映像制作スキルは放送局OBが指導。今回の舞台は大阪・門真市。何をPRすれば面白いかは自治体広報と一緒に皆さんが考えます。社会で通用する広報力を磨きます。</p>

Webサイト・SNSでは最新の情報を随時更新中♪



社会共生実習  
Webサイト



社会共生実習  
Twitter



社会共生実習  
Instagram



社会共生実習  
Facebook



エンパワ  
Twitter



坂本プロジェクト+α  
Facebook

誌面のアイデア募集！

- ・読んでみたい記事
- ・知りたい情報 etc…
- ご意見・ご感想もお待ちしております。
- 社会共生実習支援室までお寄せください。